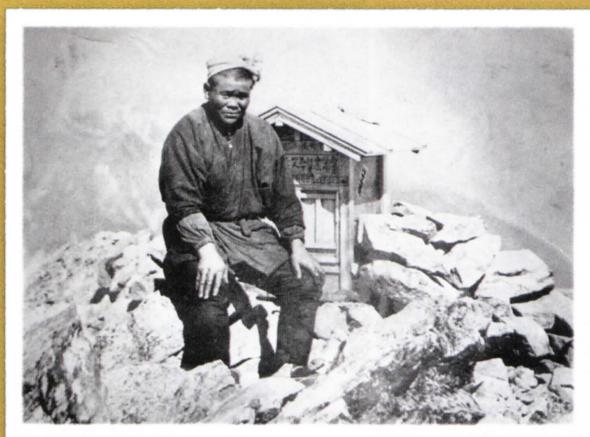


かみ じょう か せん じ
上條嘉門次
(1847-1917) ※1



とほ やま しな え もん
遠山品右衛門 (1851-1920) ※2



こ ばやし き さく
小林喜作
(1875-1923) ※3

嘉門次、品右衛門、喜作

登場の背景

北^{きた}アルプス

山人^{やまうど}たちの系譜^{けいふ}

会 期 平成19年 1月27日(土) ~ 3月25日(日)

(会期中の月曜日、祝日の翌日は休館。ただし、月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館)

開館時間 午前9時~午後5時 (入館は午後4時30分まで)

会 場 市立大町山岳博物館

観 覧 料 大人400円 高校生300円 小・中学生200円

※常設展と共通、30名様以上の団体は各50円割引 そのほかの各種割引については窓口でお問い合わせください。

主 催 市立大町山岳博物館

後 援 信濃毎日新聞社 朝日新聞松本支局 中日新聞社 読賣新聞松本支局 毎日新聞松本支局
産経新聞社長野支局 大糸タイムス株式会社 民友信州 市民タイムス FM長野
SBC信越放送 NBS長野放送 (株)テレビ信州 長野朝日放送(株)
アルプスケーブルビジョン(株) 大町市有線放送電話農協

※1 嘉門次小屋前にて 大正3年(1914) 八木道三撮影 (上條輝夫氏提供) ※2 大正初頃 (市立大町山岳博物館蔵) ※3 槍ヶ岳山頂にて 大正5年(1916) (小林貢氏提供)

大正時代に入るまでは十分な地図や山の案内書はなく、北アルプスにおける登山といえば夏山中心で、ルートを探しながらの探検的な登山が主でした。そのため、当時の登山には山を案内する者の同行が不可欠でした。このころ、登山者を案内したり登山の助言をしたりしたのは、山の地理に精通し、山中での暮らしに熟練した地元の猟師や樵など「山人」とよばれる山の幸を得て生活の糧としていた人たちが中心でした。

北アルプスの山人として広く知られるところでは、信州は安曇村島々（現長野県松本市安曇）の上條嘉門次、野口村大出（現長野県大町市平）の遠山品右衛門（本名里吉）、西穂高村牧（現長野県安曇野市穂高）の小林喜作の名が挙げられます。かれらは登山者に請われれば猟や山仕事の合間に山を案内し、登山の助言をしたりもしましたが、いずれも北アルプスを生活の場としていました。

かれら三人が持ち合わせていた狩猟の技術などは、生まれ育っ

た山の集落に何世代にもわたって綿々と継承された山の知恵によるところが大きかったといえます。そうした山の知恵はかれらから次世代へも引き継がれ、後に誕生する近代登山における登山案内人たちにも大きな影響をあたえたと考えられます。こうした流れをひも解いていくと、そこには「系譜」と呼べるような一連のつながりが表れてくるのではないのでしょうか。

本展では、嘉門次、品右衛門、喜作を中心に、北アルプスの長野県側を拠点に暮らした山人たちに焦点をあて、かれらが使ったと伝えられる道具などの関係資料を展示して紹介します。これにより、山人たちの山での暮らしを推測するとともに、山人としての嘉門次、品右衛門、喜作の実像に迫り、かれらがその時代に登場することになった背景について探ります。そして、かれら三人が持ち合わせていた山の知恵を継承した次世代の猟師や山案内人たちの系譜をたどります。

■ 展示構成

第1部 山人の源流

1. 山の暮らし 2. 山の集落

第2部 嘉門次、品右衛門、喜作の登場

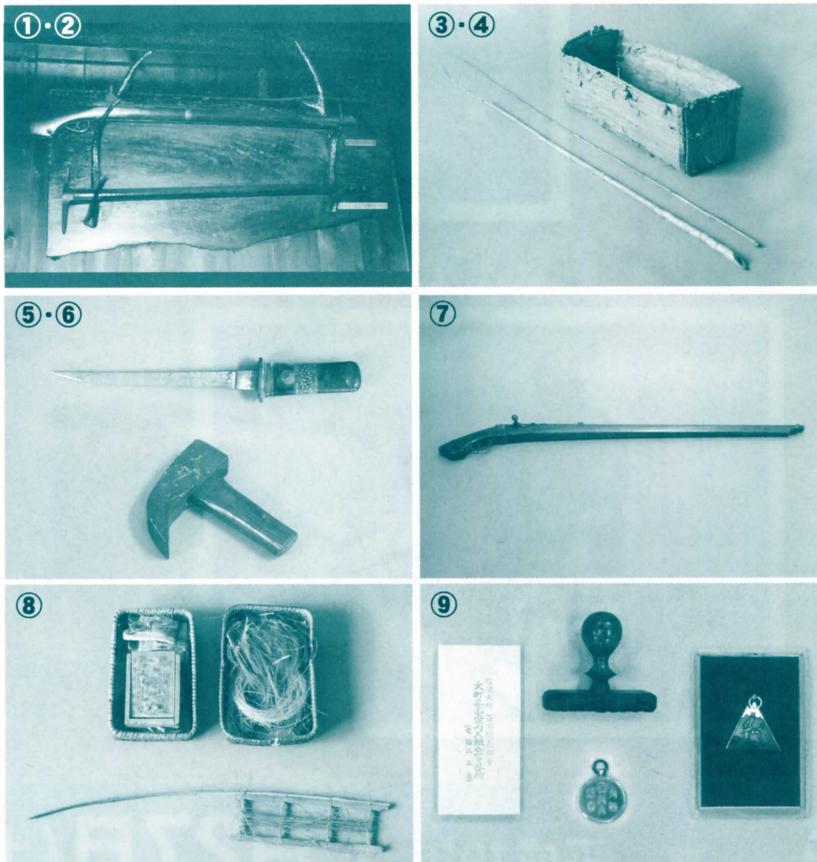
1. 上條嘉門次 2. 遠山品右衛門
3. 小林喜作

第3部 系譜をたどる

1. 上高地の山人 2. 黒部・高瀬川の山人
3. 烏川の山人 4. 登山案内人

■ 主な展示資料

- ①・②. 伝 上條嘉門次使用・旧蔵 鉄砲とピッケル（個人蔵）
③・④. 伝 遠山品右衛門使用 皮鉢と釣竿（市立大町山岳博物館蔵）
⑤・⑥. 伝 小林喜作使用 狩猟刀と白彫手斧（安曇野市穂高郷土資料館蔵）
⑦. 伝 内野常次郎使用 鉄砲（松本市安曇資料館蔵）
⑧. 伝 遠山林平使用 釣具一式（市立大町山岳博物館蔵）
⑨. 大町登山案内者組合の印章と記章（個人蔵）
常念坊宿帳「胸中のアルプス」（一部複写）（個人蔵）
小林一男筆 獵日記（個人蔵）
「高瀬入沢谷鳥瞰全図」（個人蔵・大町市文化財センター保管） ほか



● 関連催しのご案内 ●

企画展開催記念・友の会総会記念 講演会

演題「嘉門次、品右衛門、喜作 登場の背景」 講師 菊地俊朗氏（山岳ジャーナリスト）

日時 平成19年3月11日（日） 午前10時～11時30分

会場 市立大町山岳博物館 講堂

主催 市立大町山岳博物館 大町山岳博物館友の会

※参加費無料・申込不要。詳細については山岳博物館までお問い合わせください。

お問い合わせ

市立大町山岳博物館 〒398-0002 長野県大町市大町8056-1

TEL0261-22-0211/FAX0261-21-2133 E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp

交通 公共機関 JR信濃大町駅から タクシー5分、徒歩25分 マイカー 長野自動車道豊科ICから 40分

